

# 大東西小だより

学校目標 明るく 元気に 美しく

川越市立大東西小学校通信  
第2号 児童数：550名  
令和5年 4月28日（金）  
校長 米塚 貴洋

## 「やわらかいところ」の人に

新年度、新学期がスタートして、慌ただしく緊張続きの毎日を過ごしてきた子供たち。明日からはゴールデンウィーク、5月3日からは、長めの連休です。4月の疲れを回復し、リフレッシュして元気に5月を過ごせるようにしたいものです。また、この連休は、交通事故に気を付け、生活のリズムを崩さぬよう、安全で健康的に過ごせるよう見守りをよろしくお願いいたします。5月のお話生活朝会では、進級・入学し、新たな友達と過ごしている子供たちに、次のようなお話（抜粋）をしました。

児童朝会（ふれあい班決め抽選会）



4月の始業式・入学式から2週間が過ぎました。大東西小の4つのじまんに「なかよし」がありますが、「なかよく」生活していますか。みなさんに、「相田みつを」さんという人の詩を紹介します。

セトモノと セトモノと  
ぶつかりっこすると すくこわれちゃう  
どっちな やわらかければ だいじょうぶ  
やわらかいところを もちましよう 相田 みつを

「セトモノ」というのは、お茶わんやお皿、お茶を飲む湯飲みなどのことで、とてもかたいものです。かたいけど、お互いにぶつかりっこするとわれちゃうね。同じように、かたくて頑固なところと頑固なところがぶつかりっこすると、どうなるでしょうね・・・

この詩にある「やわらかいところ」って、どんなことなのでしょう。静かに考えてみて。ちょっととなりの人と自分の考えを伝えあってみましょう・・・

校長先生は、こんな風に考えました。「相手の気持ちを考える心」かなと思いました。また、けんかをしたり、嫌な気持ちをさせたりした時に、「自分のよくなかったところを考え、素直に謝る心」かなとも思いました。そして、「相手の間違いや失敗を許す心」も「やわらかいところ」になるのではないのでしょうか。このような心があれば、友達との関係は壊れないと思うからです。

そんな心の人が増えたら、なかよしが増え、居心地がよい教室になると思いませんか。

人間は、誰だって間違いや失敗をします。それを繰り返しながら成長していきます。それを、「やわらかいところ」で受け止める教室なら、答えの間違いを恐れずに発表したり、失敗を恐れずに新しいことにチャレンジしたりして成長できる教室にもなると思うんです。だから、そんな教室をみんなには作ってほしいと思います。

学校で学べるよさの一つに、集団生活があります。子供たちは成長途中ですから、集団で生活する中で、トラブルも起きます。そこで、我を張り続ける、相手を責めてばかりいるのでは、人とうまく関わる力は育ちません。将来、子供たちは広い社会へ出て、様々な人たちと出会い、共に働いたり、生活したりしていきます。そこでは、良好な対人関係を築ける豊かな社会性が必要となります。トラブルが起きた時こそ、よりよい人間関係を考えさせ社会性を育ていけるよう家庭と学校で連携していきましょう。